

令和3年度

通期業績予想

〔上半期決算反映版〕

令和3年12月

箕面都市開発株式会社

上半期決算に基づく通期業績予想の概要

1 令和3年度予算と通期業績予想を比較すると

- 通期業績予想では、予算編成時の見込みに比べ、売上高は減少しましたが、営業利益、経常利益、当期純利益とも予算を上回る見込みであり、経営は順調です。

2 調停条項と比較すると

- 期末資金残高について、**調停条項の想定推移を上回る見込み**です。
- 平成24年度末に債務超過が解消された**純資産額**についても、**調停条項の想定推移を引き続き上回る見込み**です。
- 本業の利益を示す営業利益など、いずれの利益(営業利益・経常利益・当期純利益)においても、**調停条項を上回る見込み**です。

3 今後の展望

- 今期は現時点においては、売上高が減少すると考えられますが、各利益とも予算を上回る見込みとなっており、引き続き、順調な経営予想となっています。
- 今後もキャッシュフロー安定化のための経営努力を行います。

令和3年度

通期業績予想

1. 令和3年度通期業績予想

(単位:千円・%)

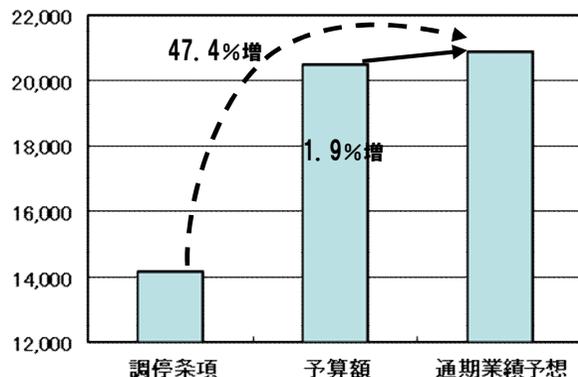
	令和3年度			令和3年度通期業績予想との比較			
	調停条項	予算額	通期業績予想	調停条項		予算額	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	106,074	126,500	123,412	17,338	16.3	▲3,088	▲2.4
営業利益	14,164	20,500	20,883	6,719	47.4	383	1.9
経常利益	12,544	17,810	19,000	6,456	51.5	1,190	6.7
当期純利益(※)	6,150	17,390	18,149	11,999	195.1	759	4.4
期末資金残高	84,070	115,641	116,191	32,121	38.2	550	0.5
純資産額	52,931	136,495	137,254	84,323	159.3	759	0.6

(※)法人税等調整額を除いています。

法人税等調整額とは・・・税務上の損金、益金で算定される課税所得と企業会計上の費用、収益で算定される当期純利益との差額を調整するものです。

2. 令和3年度営業利益(本業利益)の比較

(千円)



調停条項を上回り、ほぼ予算通りとなる予定です。

要因

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により箕面文化・交流センターの利用料金収入は減少したものの、感染症拡大防止のための一時的な休館等により販売管理費が減少したため、営業利益は予算額を確保できる見込みです。

新型コロナウイルス感染症により、箕面文化・交流センターの利用料金収入が減少したことに伴い、売上高は予算額を下回る予定です。

3. 貸借対照表

(単位:千円)

	令和2年度 (令和2年9月30日現在)		令和3年度 (令和3年9月30日現在)		増減額
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	
資産合計	578,435	100.0	569,058	100.0	▲9,377
流動資産	123,053	21.3	137,697	24.2	14,644
固定資産	455,382	78.7	431,361	75.8	▲24,021
有形固定資産	434,529	95.4	416,139	96.5	▲18,390
無形固定資産	296	0.1	296	0.1	0
投資その他の資産	20,557	4.5	14,926	3.4	▲5,631
負債合計	478,334	82.7	433,873	76.2	▲44,461
流動負債	24,968	5.2	27,281	6.3	2,313
固定負債	453,366	94.8	406,592	93.7	▲46,774
純資産	100,101	17.3	135,185	23.8	35,084

純資産(繰延税金資産除く)	88,399	—	129,114	—	40,715
---------------	--------	---	---------	---	--------

※繰延税金資産とは・・・将来の会計期間に帰属すべき税金費用(損金)を当期に前払いしたと考え、これを繰延処理することにより生じる資産のこと

4. 決算実績と予算・通期業績予想の対比

(単位:千円・%)

	令和2年度 (予算)		令和2年度 (決算)		令和3年度 (予算)		令和3年度 (通期業績予想)		増減率	
	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	金額	売上高 利益率	R2決算・ R3業績予 想対比	R3予算・ R3業績予想 対比
売上高	120,000	—	122,222	—	126,500	—	123,412	—	1.0	▲2.4
受託料収入	77,633	—	77,899	—	81,309	—	81,594	—	4.7	0.4
所有床賃貸収入	8,651	—	8,706	—	7,378	—	7,377	—	▲15.3	0
土地賃貸収入	23,580	—	23,580	—	25,008	—	25,008	—	6.1	0
受取手数料収入	2,389	—	2,590	—	2,355	—	2,992	—	15.5	27.0
文化・交流センター売上	7,747	—	9,447	—	10,450	—	6,441	—	▲31.8	▲38.4
営業利益	15,000	12.5	22,722	18.6	20,500	16.2	20,883	16.9	▲8.1	1.9
経常利益	12,108	10.1	24,122	19.7	17,810	14.1	19,000	15.4	▲21.2	6.7
当期純利益 (法人税等調整額除く)	12,800	10.7	39,126	32.0	17,390	13.7	18,149	14.7	▲53.6	4.4

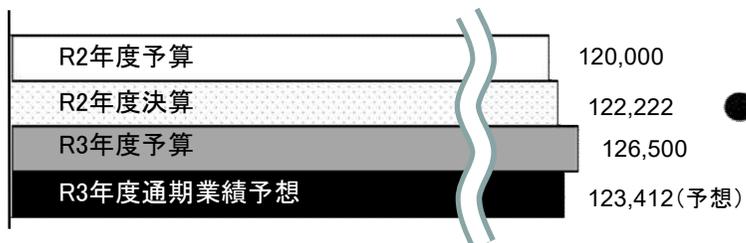
5. 売上高・利益の推移

・令和3年度は、予算時に比べ売上高はやや減少するものの、営業利益、経常利益、当期純利益とも上回る予定です。

R2決算・R3予算と通期業績予想の比較・主な要因

売上高

(単位:千円)



決算比1.0%増
 ・箕面文化・交流センターの利用料収入は減収となったものの、受託料収入等の増加による

予算比2.4%減
 ・箕面文化・交流センター利用料金収入の減少による

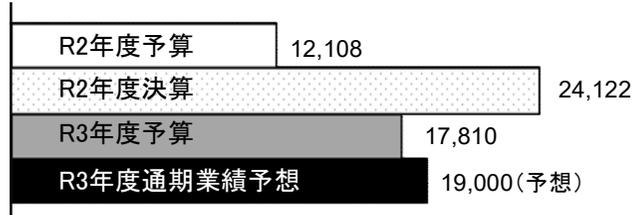
営業利益



決算比8.1%減
 ・箕面5丁目土地一部売却により箕面市への賃料支払い経費の増加による

予算比1.9%増
 ・箕面文化・交流センターの営業時間短縮等による販売管理費の減少による

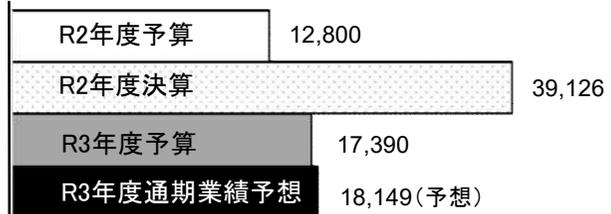
経常利益



決算比21.2%減
 ・令和2年度に計上した営業外利益(箕面文化・交流センター損失補填及び国の休業補償)の減少による

予算比6.7%増
 ・営業利益の増益による

当期純利益



決算比53.6%減
 ・令和2年度に計上した固定資産売却益の減少による

予算比4.4%増
 ・経常利益の増益による

参考1：経営内容を判断するポイント

■ 貸借対照表や損益計算書で経営判断することも必要ですが、新たな投資や臨時的な支出に大きく左右されます。

★ 調停条項の着実な履行を判断するポイント

- ① 期末にどれだけの資金残高があるのか
- ② 純資産額が増加しているのか

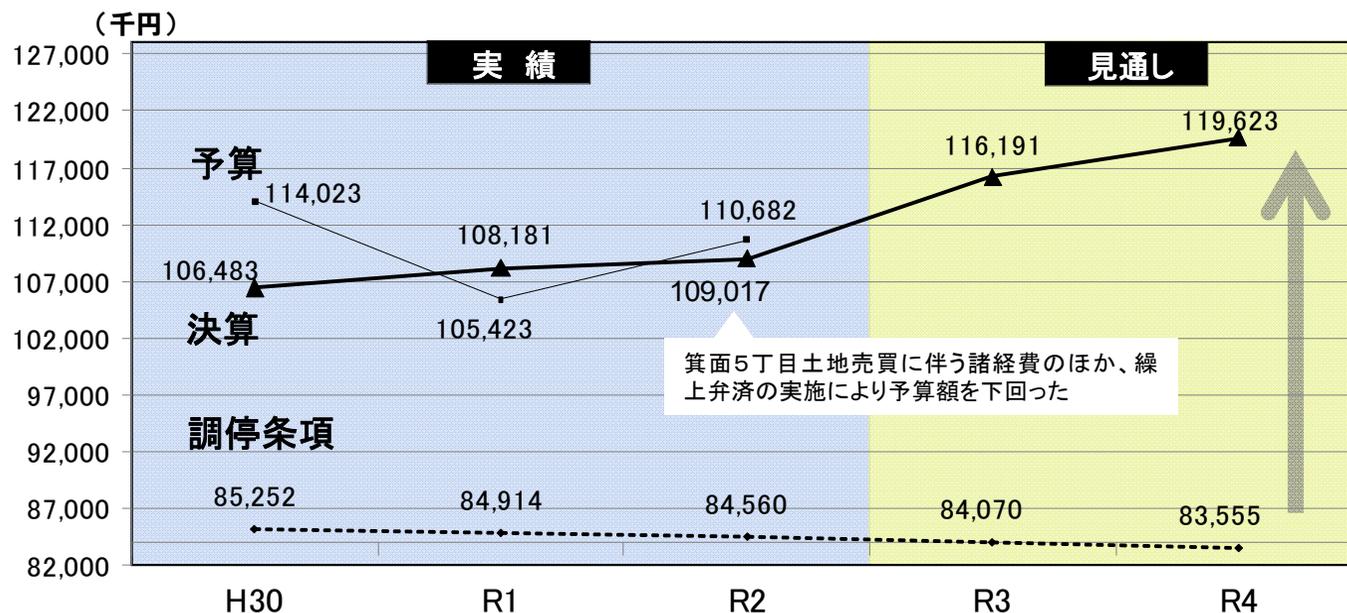
.....➡ 資金計画で判断することが適切

参考2：資金計画の見込み

(1) 期末資金残高の推移

(単位：千円)

	各年度の予算・決算実績				令和3年度	令和4年度
	平成30年度	令和元年度	令和2年度		調停条項	今後の見通し
調停条項	85,252	84,914	84,560	調停条項	84,070	83,555
予算	114,023	105,423	110,682	今後の見通し R2年度通期業績予想による	116,191	119,623
決算	106,483	108,181	109,017		(予算115,641)	



11期連続で調停条項の推定推移を上回る予定です。

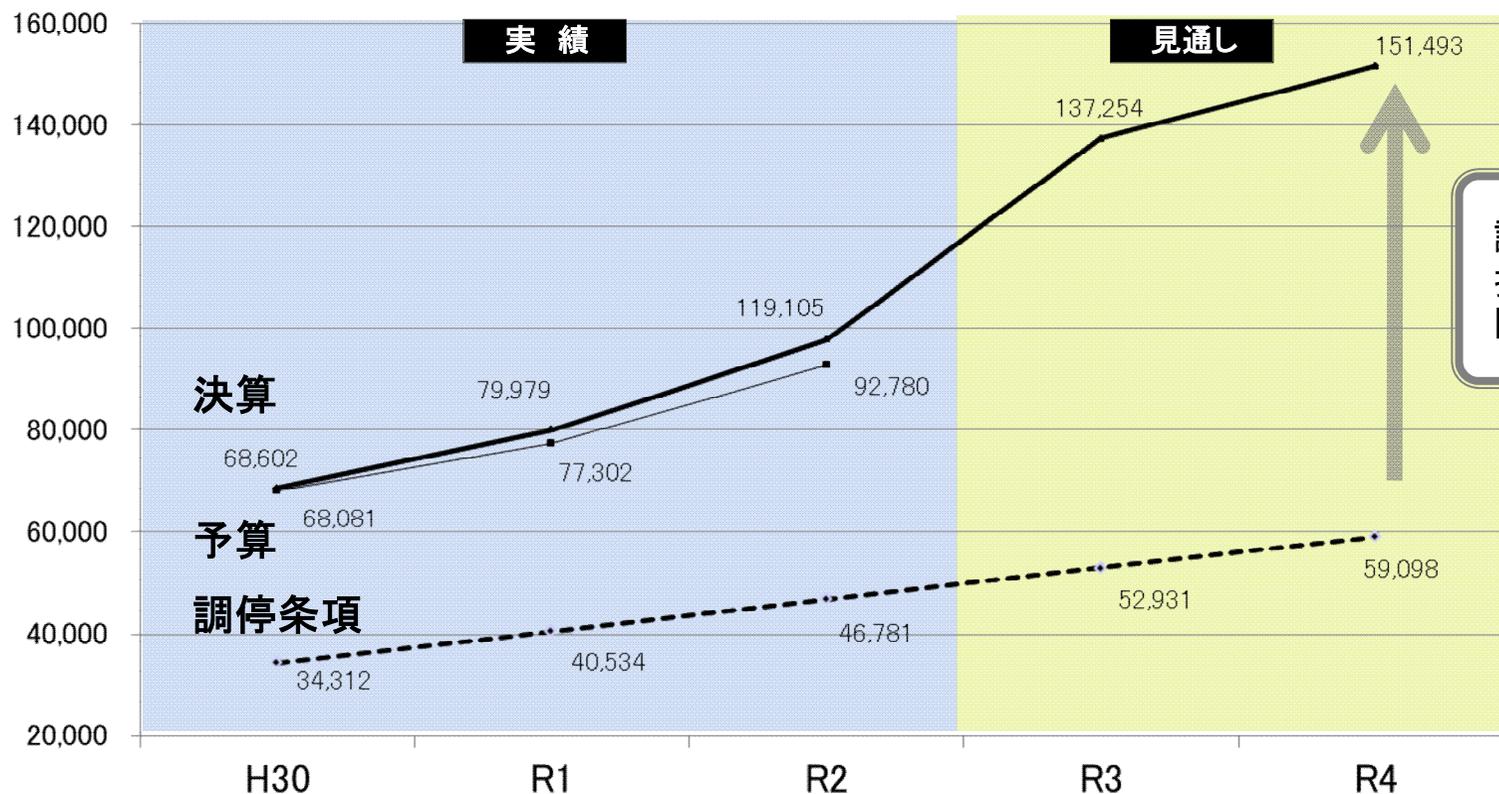
(2) 純資産額の推移

(単位:千円)

	各年度の予算・決算実績				令和3年度	令和4年度
	平成30年度	令和元年度	令和2年度			
調停条項	34,312	40,534	46,781	調停条項	52,931	59,098
予算	68,081	77,302	92,780	今後の見通し R2通期業績予想による	137,254 (予算136,495)	151,493
決算	68,602	79,979	119,105			

(各数値は繰延税金資産を除いています)

(千円)



調停条項の想定推移を大幅に上回る予定です。

参考3：事業別売上高の推移

(千円)

